



『人が元気になる』 ソーシャルファームを目指して

亀海 聡さん (かめうみ さとし)
ピリカ株式会社 代表取締役

農山漁村における地域の活性化や、個性的で魅力ある地域づくりの優れた活動を紹介するシリーズ。

今回は「わが村は美しくー北海道」運動第10回コンクールでNPO特別賞を受賞した「ピリカ株式会社」の亀海さんにお話を伺いました。

《障がい者と健常者が共に》

北海道の中央に位置し旭川市に隣接した比布町は人口3,400人ほどの農業の盛んな町です。その比布町で「障がい者と健常者が共に働けるソーシャルファームをつくろう」と活動している団体がピリカ株式会社です。そこでは、自然栽培の野菜や加工品の販売、比布町で唯一のパン屋さんを経営、「ピップエレキバン」のCMで全国的に有名な比布駅で地域の特産物の販売や地場食材を使った食事の提供をしています。

亀海さんは、以前、京都の病院で精神保健福祉士として従事していたときに障がい者の就労支援をしていました。そのときに働く障がい者が目を輝かせて成長する様子を見て、自信をつけることは大切なことだと思い、実家がある旭川近郊で農地を探しはじめます。農業も販売も未経験の亀海さんは、近所の農家に栽培を教えてもらい農業を勉強、加工や販売は行政から卸業者を紹介してもらい販路や経営を学び、2011年「ピピファーム」を開業し、トマトジュース「ピリカノメグミ」を販売。今では加工商品も増え、自然栽培した野菜は大手スーパーでも販売しています。



ピリカオリジナル商品と焼きたてパンのほか、地域の特産品も販売している(ビピマルシェ店内)



比布町での農業は5カ月間雪に覆われ作業ができません。亀海さんは、1年通して仕事ができないかと模索し、当時比布町には無かったパン屋さんを思い付きます。1年かけてパン職人にアドバイスや技術を教わりながら、2014年「ビピマルシェ」を開店しました。開店当初からメディアなどでも取り上げられ比布町民はもとより、近隣の地域からお客さんが訪れるパン屋さんになっています。店舗の2階では、「映画鑑賞・料理教室・etc」など地域の方々の交流スペースになっています。



ビピマルシェのパンは店舗販売のほか、ホテルにも届けている

2016年には、無人駅だった比布駅の建替え時に町からの要請で「ピピカフェ」をオープンしました。駅には観光客のみならず、インバウンド客や鉄道ファン、故樹木希林さんも訪れたそうです。

比布町は「いちごのまち」としても有名ですが、後継者不足などの理由でいちご農家が減っています。亀海さんは町からいちご栽培をやってもらえないかと言われ、2026年8月にいちごの苗を植えて、2027年6月開園予定のいちご狩りに向けて、これからも比布町でソーシャルファームを目指して活動していきます。

当協会ホームページ、「わが村は美しくー北海道」運動第1～9回受賞団体の活動概要をまとめた冊子『生産空間の活性化に資する地域事例集』をご覧ください。

